

平地育苗セルリーの高冷地早出し栽培について

高倉志能・立川喜平
(大分県農業試験場)

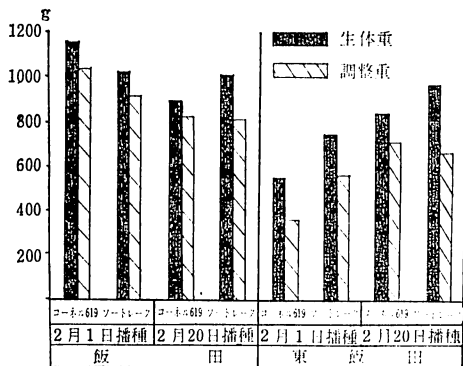
TAKAKURA, S. and TATUKAWA, K.
Studies on the Acceleration of Harvest on Highland
by use of Seedling of Celery grown on Lowland

I. ま え が き

暖地における早採りセルリーは梅雨あけが収穫限界であるので、その後は高冷地の早出し栽培が要求される。高冷地でのセルリー栽培は現地の育苗で8月下旬から収穫である。そこで平地育苗のセルリー苗を高冷地にあげることによつて早出し栽培用として使えるかどうか、また、そのあげる時期及び場所を検討するため、1963年に現地で生態調査を行つたのでその結果を報告する。

II. 試 験 方 法

試験地 大分県玖珠郡九重町飯田高原 (800m)
大分県玖珠郡九重町東飯田 (600m)
供試品種 ユーネル619 ソートレーク
播種月日 2月1日, 2月20日
定植月日 2月1日播を5月10日, 2月20日播を
生体及び調整重量



5月25日

区制 1区50本, 2区制
栽植距離 132cmの畦巾2条植, 株間40cm

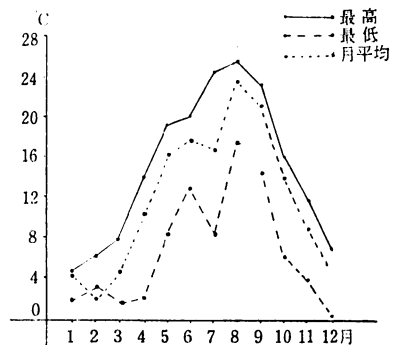
III. 成績及び考察

収穫期は5月10日定植が7月下旬から8月下旬にかけて、5月25日定植が8月下旬から9月にかけて両地区及び両品種とも収穫することができた。

生体重及び調整重においては飯田高原が両品種ともすぐれていた。

抽苔については5月10日定植のユーネル619が飯田高原で40%、東飯田で14%の抽苔をみたがソートレークは飯田高原で14%の抽苔をみただけで東飯田ではみなかった。5月25日定植では両地区、両品種とも全く抽苔をみなかった。

飯田高原温度表 (1962)



表一 高冷地早出し栽培試験成績

試験地	品 種 名	播種期		定植期	収穫期	草 丈	生体重	調整重	最 大 葉柄長	第一節間長 15cm以上	葉柄の太さ		抽苔率	敗腐率
		月日	月日								市	厚さ		
飯 田	ユーネル619	2. 1	5. 10	7. 25	53.4	1,160	1,018	16.9	9.2	1.3	1.1	40	0	
														ソートレーク
	ユーネル619	2. 20	5. 25	8. 25	55.1	900	314	18.4	13.3	2.2	1.0	0	0	
														ソートレーク
東 飯 田	ユーネル619	2. 1	5. 10	7. 25	50.1	555	377	18.7	9.3	1.1	0.4	14	30	
														ソートレーク
	ユーネル619	2. 20	5. 25	8. 25	54.8	823	713	15.1	11.0	1.9	0.9	0	10	
														ソートレーク

病害については6月下旬より両地区とも葉枯病、斑点病がでたがダイセン、石灰ボルドーで防除することが出来た。しかし東飯田において7月下旬より腐敗病がではじめ5月10日定植がいずれの品種も30%、5月25日定植がコーネル619の品種で10%の腐敗率をみた。

以上の結果から本試験の範囲では、平地セルリー苗を利用した高冷地早出し栽培は、標高の高い飯田高原で収量、品質、病害などの点から非常に有望であることがわかった。定植の時期も5月中旬が最もよく、それより早くなると抽苔の心配があり、遅くなると収穫期がさがることになる。